

経営比較分析表（平成28年度決算）

鳥取県 琴浦町

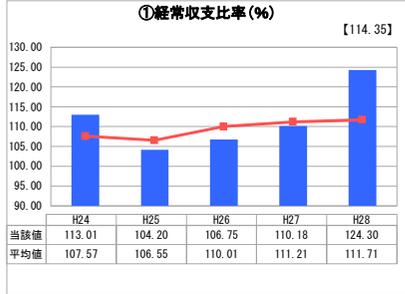
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.73	91.00	3,513	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,002	139.97	128.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
16,262	13.42	1,211.77

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



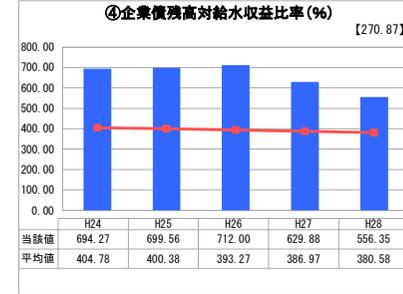
「経常損益」



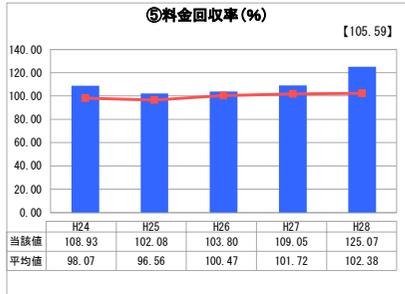
「累積欠損」



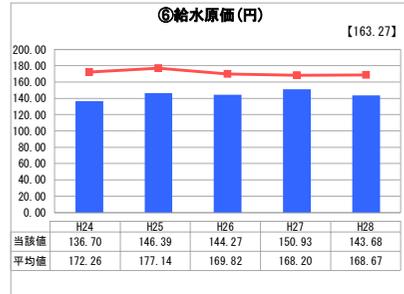
「支払能力」



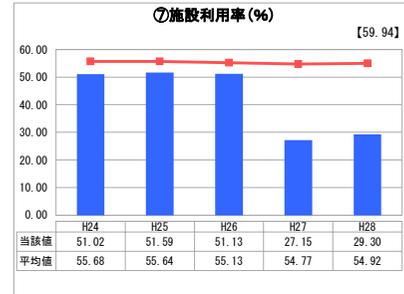
「債務残高」



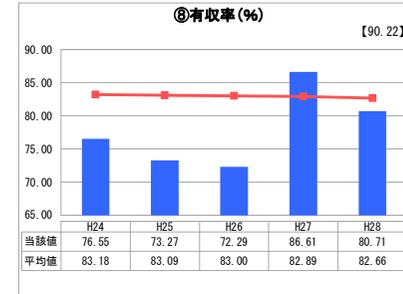
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

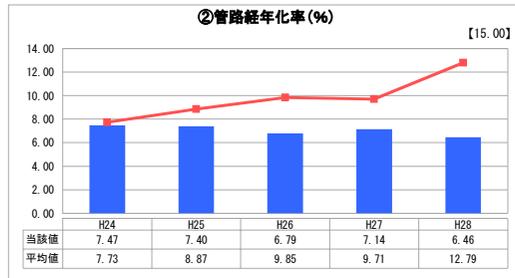


「供給した配水量の効率性」

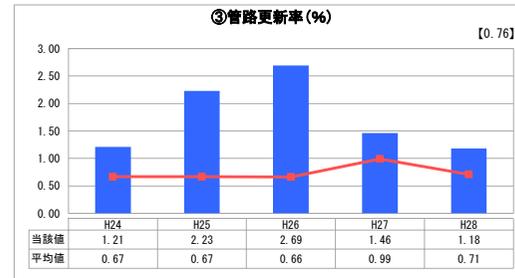
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、平成27年10月からの料金改定により前年度に比べ改善してきているが、今後100%を下回らないように収支バランスを管理していく必要がある。

企業債残高対給水収益比率においては類似団体の平均値を大きく上回っており、企業債への依存度が大きい。これが流動比率を引き下げる要因となっている。企業債残高のピークは過ぎ、今後は減少する予定である。

施設利用率については類似団体よりも下回っているため、施設を効果的に稼働できていない面もある。人口減少や節水技術の向上により需要が減少するため、全国的に減少傾向となっている。

有収率については、大きな漏水の発生等により前年度と比較して下回っているが、漏水調査による管路修繕等により平成26年度と比較すると上回っている。引き続き漏水調査を実施することで有収率を引き上げていきたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率をみる限り、老朽化度は全国平均と比べて低い傾向にある。もし、この指標が高ければ老朽化が進んでいるということになるため、その時期に施設の修繕、更新に係る費用が多くなっていく。

管路については、現在は下水道工事に伴う老朽管の更新をしているため類似団体よりも更新率が高いが、経年老朽化が進んでいる管路もあるため、適正な更新計画や資金との調整を図りながら、事業運営に必要な資金を確保していく必要がある。

全体総括

単年度の経営成績に大きな問題は無いが、企業債残高の多さが目立つため、今後の資金管理が重要となってくる。

施設の老朽化に関しては、類似団体と比較しても低い傾向にあるため、早急に更新費用が必要となる状態ではないが、老朽化した配水池等の設備更新に備え資金を蓄えておく必要がある。

また、企業債の発行を抑えることが今後の課題の一つといえる。

平成31年度策定予定の経営戦略(水道ビジョン)では、適正な施設更新計画、財政計画をふまえたものとし、策定後は経営戦略に基づき中長期的に施設更新を行っていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。